

令和4年度 福井南特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	学習指導要領の指導内容に基づいた指導計画を作成し、3つの観点に応じた評価を図る。	教員が学習指導要領を指導に生かすことが定着したが、3つの観点の中でも、思考・判断・表現、学びに向かう力の2つの観点に評価の難しさが見られた。ほとんどの保護者が成長を感じているが、年齢が上がるにつれて生活についての細やかな表現がなくなることにより不満を感じる保護者もいる。	評価の難しさが見られる思考・判断・表現、学びに向かう力をどのような場面を評価するか、どう表現するかなど教員間で共通理解を持つようにする。保護者とは、成果を都度共有することを大切にしつつ、思考・判断・表現している姿や、学びに向かう姿についても成長として捉えられるように伝えていきたい。
	学習指導要領を基に、児童生徒が主体的に取り組めるような授業づくりを工夫する。	教員間で研究会等で主体的に取り組める授業について検討し、それに基づいて授業内容や支援方法について話し合うことで、子どもの目標を共有しながら授業を行えた。保護者には、懇談会や連絡帳のやりとり等を通して、子どもの頑張っている姿や伸びた点などを伝えることで、成長を感じてもらえた。	教員は、今後も児童生徒が主体的に取り組む授業づくりを行うため、子どもの実態に合わせた目標を立て、目標を達成するための効果的な支援方法について検討する。保護者に対しては今後も懇談会等で、どう伸びたかをより具体的に伝える。また、お便り等を通して学校での支援方法を伝えていく。
人権教育・生徒支援	(異性とのかかわりを含む)人とのかかわり方やネットの使い方についての支援・指導を行い、いじめやトラブル防止に努める。	高等部教員は、昨年度よりもさらに情報モラル教育に取り組んだ。今後は、小中学部ではネット利用、高等部では性に関することにさらに取り組んでいく必要がある。生徒に対しては、生活指導だけでなく、生単の授業や学級活動、個別の指導等で丁寧に支援・指導を行った。細かいトラブルはあるので、今後も人とのかかわり方やスマホの使い方について継続して指導が必要である。	教職員に対して、タブレットやネットゲーム利用に関する問題や対策方法などの情報を指導部から提供し、小中学部での指導に生かす。高等部では各教科で連携して性教育を進め、性トラブル防止を図る。生徒に対しては、今後も、保健体育や生単の授業と連携して、情報モラル教育を進めると共に、友達や異性と付き合うときの最低限のマナーやストレスとの付き合い方などの指導も行っていく。
	学校での取組を発信したり、児童生徒の支援策を保護者と考えたりするなど、家庭と連携して支援・指導を行う。	教職員が積極的に指導を行い、取組を学部便りでお知らせしたことで目標を達成できた。高等部では、「我が家のスマートルール」について家族で話し合ってもらった。ネットの使い方について、今後は小中学部の保護者にも課題意識を持ってもらえるように発信していく必要がある。	教職員は、タブレットやネットゲーム利用について、家庭での様子を聞き取り、必要な支援や指導について連絡帳や懇談で話し合うようにする。家庭に対しては、タブレットやネットゲーム利用に関する問題などの情報を定期的に発信して保護者の意識を啓発し、家庭でできる支援について学校での取組を紹介しながら一緒に考える。
進路支援	希望調査や説明会、相談会といった進路関連行事のほか、生活や学習活動など、学校生活のあらゆる場面において、児童生徒の卒業後の生活を意識した支援を行う。	児童生徒の進路実現をふまえた支援に対する教職員の関心の高まりを感じる。小学部や中学部では、そもそも児童生徒の進路実現を具体的に意識することは少し難しいのかもしれない。保護者に対して、様々な機会を通じて、児童生徒の進路実現に関する情報を提供することができた。保護者が日頃から感じている希望や不安を、さらに的確に把握する。	高等部での産業現場等における実習からフィードバックされた支援方法に関して情報を提供し、日々の学校生活における進路支援が、より実践しやすくなるようにする。また教員を対象とした進路支援に関する学習会を催す。進路希望調査の結果や保護者懇談会の内容について、担任教諭と連携して情報共有を図る。保護者の抱く希望や不安を把握し、適切に情報を提供する。
	高等部での産業現場等における実習が、進路選択の参考となるように充実させる。	実習の準備や振り返りを行ううえで、教職員間の連携を深めることができ、とくに高等部C課程でも激励会や反省会を開催できた。今後は実習に臨む雰囲気をもより良く醸成して、さらに意義深い実習にできるようにする。高等部生徒に対し、産業現場等における実習を経験することによって、進路選択について考える機会を設けることができた。今後は生徒が自分の希望する実習先について、さらに深く考えるよう働きかける。	高等部教員に対し、産業現場等における実習に関する事前あるいは事後の学習について、より効果的かつ効率的な方法を提供する。進路希望調査や保護者懇談会、生徒との懇談等の内容を担任教諭と共有して、生徒本人に適切な実習先を提供して、生徒が主体的に進路について考えられるようにする。
保健・安全	生命の安全教育を踏まえた教材を活用しながら、学部舎で児童生徒に応じた指導や支援を行えるよう、教職員の意識の底上げを図る。	教職員に対して、講師を招いて性指導講演会を実施できた。開催が夏季休業中であつたため参加できなかった教職員もいたと思われる。教職員が性指導や清潔指導について学んだり深めたりなど、継続していくことが今後の課題である。保護者に対しては、今年度から「こころ＊からだ通信」を年2回発行した。グループやクラスでの取組はそのつど連絡帳を通して伝えていくが、保護者の15%は不十分と感じていることが課題である。生徒が心や体について学び自分や相手のことを考える機会が持てた。今後は学部全体で指導を繰り返したり積み上げたりする。	教職員に対して、性指導に関する研修会の機会を設定し参加を呼び掛けたり、保健部や性指導グループ会から学部舎への発信をしたりする。保護者に対しては、「こころ＊からだ通信」をHPに掲載する。通信は保護者に向けて一方通行なので、保護者からの意見や感想をもらえる欄を作成する。また、グループやクラスでの取組については周知の仕方を検討する。特に高等部だよりではプライバシーに配慮した取組を掲載できるとよい。生徒に対しては、一部の教科だけでなく複数の教科で取り組めるよう内容を整理し、年間指導計画に位置づけていく。
地域交流	地域(家庭・福祉・医療等)と連携し、特別支援教育に関する理解を促す。	教員が、毎日の連絡帳や保護者懇談会等で児童生徒の成長について保護者に説明を行った。さらに、学部だより、HPなどで本校の教育活動について発信を行った。また、必要に応じて、事業所など関係機関との支援会議を開催し、児童生徒について必要な情報を提供するとともに、支援についての共通理解を図ることができた。	今後も伝えたい活動に応じて、写真や動画などの有効な手段を柔軟に活用しながら、本校の教育活動の発信に努めていきたい。児童生徒の状況を的確に把握し、必要に応じてより速やかに家庭や地域、関係機関と連携が取れるよう努めていきたい。
	居住地校交流、学校間交流、地域交流、校外学習等の活動を通して、地域の人と関わる機会を設け、より有意義な交流活動となるよう工夫する。	交流における目標や内容について、児童生徒の気持ちを聞き取りながら検討を行った。今後も事前学習等を通して児童生徒が目標を意識して地域とのかかわりに臨めるように支援するとともに、実施後は児童生徒と振り返りを行った。交流を行う児童生徒の担任や校外学習の担当教員だけでなく、学年・学部の教員全体で、児童生徒一人一人の交流の目標などについて共通理解を深めていく。交流先に対して、居住地校交流や校外学習、地域交流、産業現場等における実習等の活動後、アンケートを行った。お互いにとって貴重な交流の機会となっていることがうかがえた。	今後も児童生徒一人一人にとっての地域とのかかわりにおけるねらいを検討し、相手先と共通理解を深めながら交流を行ってきたい。学年会や学部会等で一人一人の交流の目標や経過などについて報告・検討する機会を設けていきたい。交流先に対しては、今後も、ねらいに即した地域とのかかわりをしていくために、対面や作品交換、リモートなど、いろいろな方法を活用して交流の拡充に努めたい。本校児童生徒の目標だけでなく、相手先の考えや目標なども丁寧に聞き取りながら、双方にとって有意義な交流のあり方を今後も考えていきたい。